



施政方針



令和3年第4回市議会定例会で関市長が発表した「施政方針」から、市長の所信表明と本市が目指す方向性をお伝えします。

市民との対話・ 交流を盛んにし、 透明で活力ある 市政を実現

選挙期間中には、市民の皆さまから、まちづくりに関するさまざまな意見をいただきました。これまでの市政を評価する声上がる一方、地

域経済の低迷に加え、高齢者福祉や子育て支援の充実など直面する諸課題に対する不安に加え、「将来を期待できる鹿角市にして欲しい」といった声を聞きました。
こうした皆さまの声や思いを市政に反映させるため、市民との対話を市政運営における基本姿勢に据え、対話を通じて交流を促進し、鹿角の総力を結集させていくことで、透明で活力あるまちづくりに取り組みます。

県・隣県・国との パイプを強化し、 北東北経済圏を 確立

地方分散型社会に移行する潮流の中で、新しい人の流れと人と地域のつながりを確保するとともに、情報通信産業のほか、地熱、水力、風力



といった豊富な再生可能エネルギーの活用などによる付加価値の高い新たな産業を創出するため、隣県や他の市町村、各種団体などと情報共有を図ります。
また、北東北3県の中央に位置する地理的条件を活かし、近隣市町村との連携を強化することにより、地域経済の成長に結び付けていきます。

農林業については、安定的な経営と後継者確保のため、複合化や多角化を図るための新たな設備導入やICTの活用を支援するほか、冷涼な気象条件を生かした野菜、花き、果樹や畜産などを組み合わせた複合経営の推進と、かづの北限の桃、かづの牛、淡雪こまちなどブランド作物の生産拡大を図りながら、所得の向上に資する取り組みを展開します。

商業については、新商品の開発や販路拡大、情報発信、賑わいづくりなどに意欲的に取り組む事業者や組織を支援するとともに、生産性や付加価値の向上のための先端技術や設備の導入などに対して、ハード・ソフト両面から支援します。
観光については、恵まれた観光資源や歴史文化遺産を生かした滞在型

観光を確立させることにより、交流人口の拡大と賑わいの創出を図り、外貨獲得を目指します。

医療・福祉を 充実させ、 誰もが安心して 暮らせる鹿角を つくる

本市では、65歳以上の高齢者人口が、令和3年をピークに減少に転じると推計されていますが、令和7年には、いわゆる「団塊の世代」全てが75歳以上になることから、後期高齢者人口が増加し、これまで以上に介護ニーズが高まるものと予想されます。高齢になっても、住み慣れた地域で可能な限り自立した日常生活を営むことができるように、介護予防や健康づくりの取り組みを強化することで健康寿命の延伸を図るとともに、福祉サービスの充実を進めます。

医療については、産婦人科などの医師不足の解消が最優先課題です。地域に必要な医療の維持・充実のため、医療機関などと連携して医師確保に向けた取り組みを強化し、必要な時に適切な医療を受けられる地域医療体制の構築に努めます。
また、本市の将来を担う若者が希望を持って暮らすことができるよう、働く場を確保するほか、結婚・出産・子育てができる環境づくりと支援体制のさらなる充実を図ります。



市民との対話で鹿角の総力を結集